



人々の生活を便利にする半導体

ポイント

- ① 成長を続ける半導体市場
- ② 半導体の進化がもたらした日常生活の変化
- ③ 半導体のこれからと半導体株投資の魅力

1. 成長を続ける半導体市場

半導体市場は30年以上もの間、目覚ましい成長を続けてきました。

1987年から2022年の間に世界の半導体の市場規模は約18倍になっており、世界のGDP(国内総生産、米ドルベース)の同期間の成長が約6倍であることに鑑みると、半導体市場がいかに突出した発展を遂げたかが窺えます。

半導体市場がなぜこれだけの成長を見せたかと言えば、半導体の進化が我々の日常生活を便利にしてきたことで、人々の需要を惹きつけ続けたため、との説明が適切でしょう。

次ページ以降で、半導体の進化がもたらした日常生活の変化を見てみましょう。

世界の半導体の市場規模

期間：1987年～2023年*、年次



(出所) SIA (米半導体工業会)、WSTS (世界半導体市場統計) のデータを基に野村アセットマネジメント作成
*2023年の数値はSIA、WSTSの予想値。
画像はイメージです。

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

2. 半導体の進化がもたらした日常生活の変化

便利になった事例① コミュニケーションはすぐに、どこでも

最も身近な半導体の恩恵の一つとして、スマートフォンがあげられます。

遠くにいる人とコミュニケーションをとろうとすれば、昔は手紙の往來のために数日～数週間を要していましたが、電話が誕生したことで、お互いが電話のある場所にいれば会話が可能になり、今ではスマートフォンを使うことで、思い立ったときに、どこでもコミュニケーションを取れるようになりました。



手紙

コミュニケーションには、手紙が届くまでの数日～数週間の時間が必要。



電話

コミュニケーションは時間の遅れなく行なえるものの、お互いが電話のある場所にいる必要があった。



スマートフォン

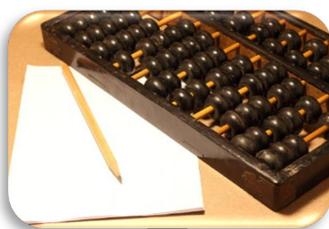
時間の遅れなく、かつ、場所を選ばずに、コミュニケーションが可能。更にSNSなどでは、複数人が同時にコミュニケーションが可能に！

上記は一例です。画像はイメージです。

便利になった事例② 高度な計算で、正確な情報を入手可能に

コンピューターもまた、半導体の進化によって実現したものです。

計算にそろばんを使っていた時代から、計算機が実用化されて四則演算が瞬時に、正確に行なえるようになり、続くコンピューターの誕生は、高度で複雑な計算を可能にしました。特にビジネスシーンにおいては、コンピューターの普及によって、業務効率が飛躍的に向上しました。



そろばん

四則演算等、基本的な計算が可能。使用者のスキルにも依存。



計算機

四則演算を瞬時に正確に行なえる。複雑な計算には限界がある。



コンピューター

四則演算のみならず、高度で複雑な計算も可能。

上記は一例です。画像はイメージです。

2. 半導体の進化がもたらした日常生活の変化

便利になった事例③ 手を動かさずとも、自動ロボットにおまかせ

AI（人工知能）を搭載した自動ロボットの発展にも半導体は欠かせません。

かつて人の手で行なわれていた作業のうち、一定の動きを正確に繰り返すものなどは、ロボットに担い手が移ってきました。昨今では、AIを搭載した自動ロボットが物流倉庫で仕分けや搬送を行なうなど、人の判断が必要とされた作業でさえもロボットに任せられるようになっていきます。



人

人やタイミング等によって、成果にばらつきがある。体力も有限。



ロボット

一定の動きを正確に繰り返し行なうことが可能。臨機応変な対応には限界。



AI搭載ロボット

AIを搭載したロボットで、自らのような判断をしたり、複雑な動作をすることが可能。

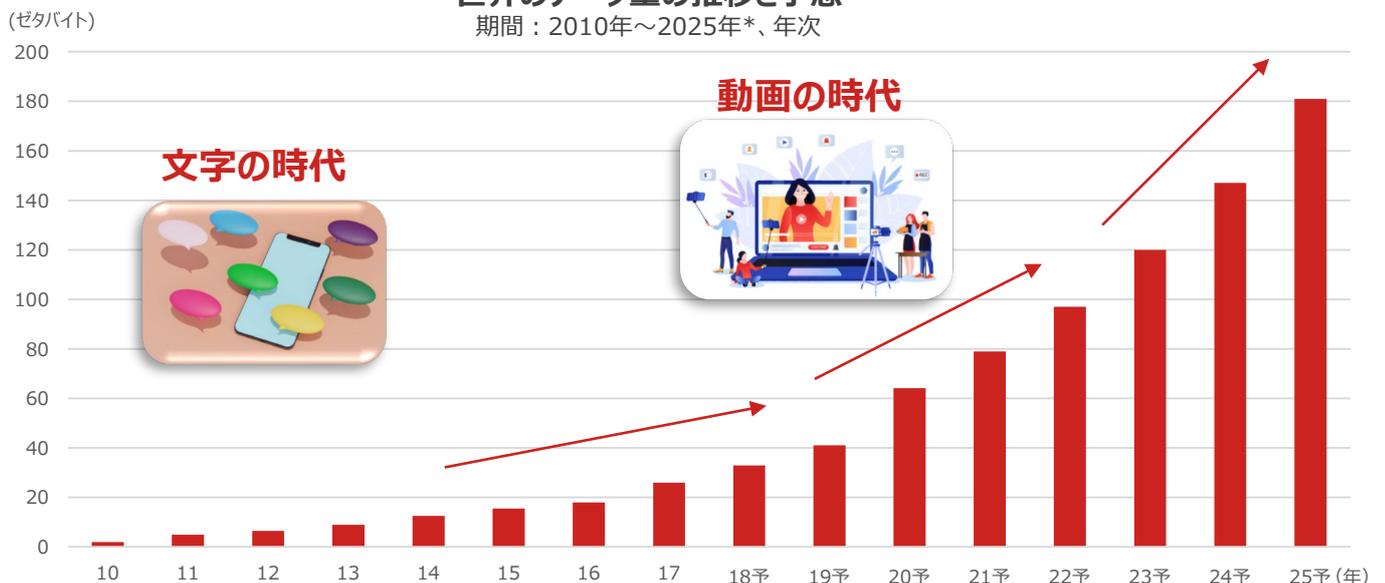
上記は一例です。画像はイメージです。

動画時代が半導体需要を大きく押し上げる

動画は膨大なデータ量を必要とするため、市場ではデータ量が急増しています。こうした急増するデータを処理しているのがデータセンターです。そのデータセンターでは大量の半導体が使われており、年々、急増しています。

世界のデータ量の推移と予想

期間：2010年～2025年*、年次



(出所) IDC、Statistaのデータを基に野村アセットマネジメント作成
*2018年～2020年の数値はIDCの予想値、2021年以降の数値はStatistaの予想値。
画像はイメージです。

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

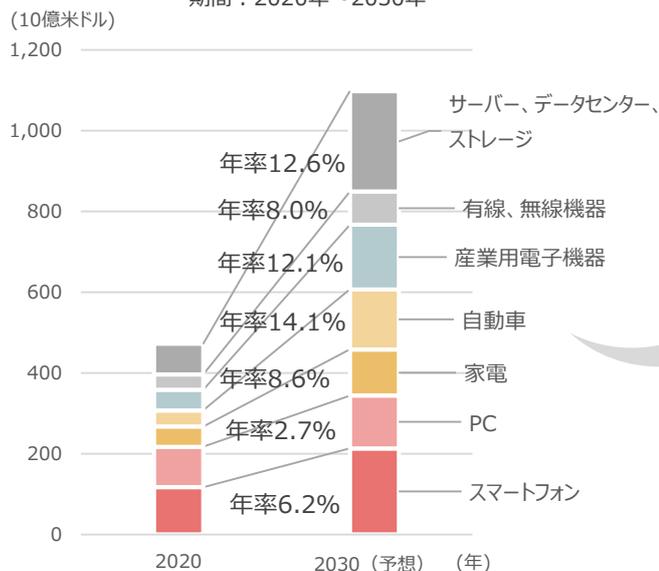
3. 半導体のこれからと半導体株投資の魅力

半導体の用途は多様化、業績のブレの安定化につながるか

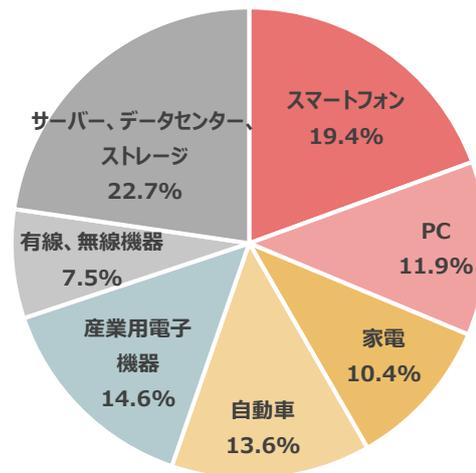
半導体の用途は今後、自動車の自動運転、AI搭載ロボット、工場など用途が多様化し拡大していきます。以前の半導体市場はPC需要の変動の影響を大きく受け、収益や株価の変動が激しい業界として知られていました。しかし、今後は用途の拡大によって、収益や株価の変動が安定していくことが期待できます。

分野別半導体世界売上高の予想

期間：2020年～2030年



2030年の半導体の用途別需要



四捨五入により、各内訳の合計が100%とならない場合があります。

*2030年の数値はASMLの予想。

(出所) Statistaデータを基に野村アセットマネジメント作成

未来はより便利になる、そのために、より低コストでより高性能な半導体が必要

近い将来、自動運転で手軽に移動が出来るようになり、家事をこなし、悩み事の相談にもものってくれるAIロボットが現れるかもしれません。すでにChatGPTのように、まるで人間と会話するようなやり取りが可能な、革新的なAIツールが登場してきています。

自動運転



画像はイメージです。

AI



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

ご参考：半導体の歴史を表す代表銘柄

米インテル：PC全盛時代の主役

2000年にかけてWindows搭載PCが一気に普及していった時代を支えたのがインテルでした。「Intel Inside（インテル入ってる）」で知られたように、PCのMPU（メインの半導体）といえばインテル製で、PC需要の爆発的拡大とともに需要が拡大しました。

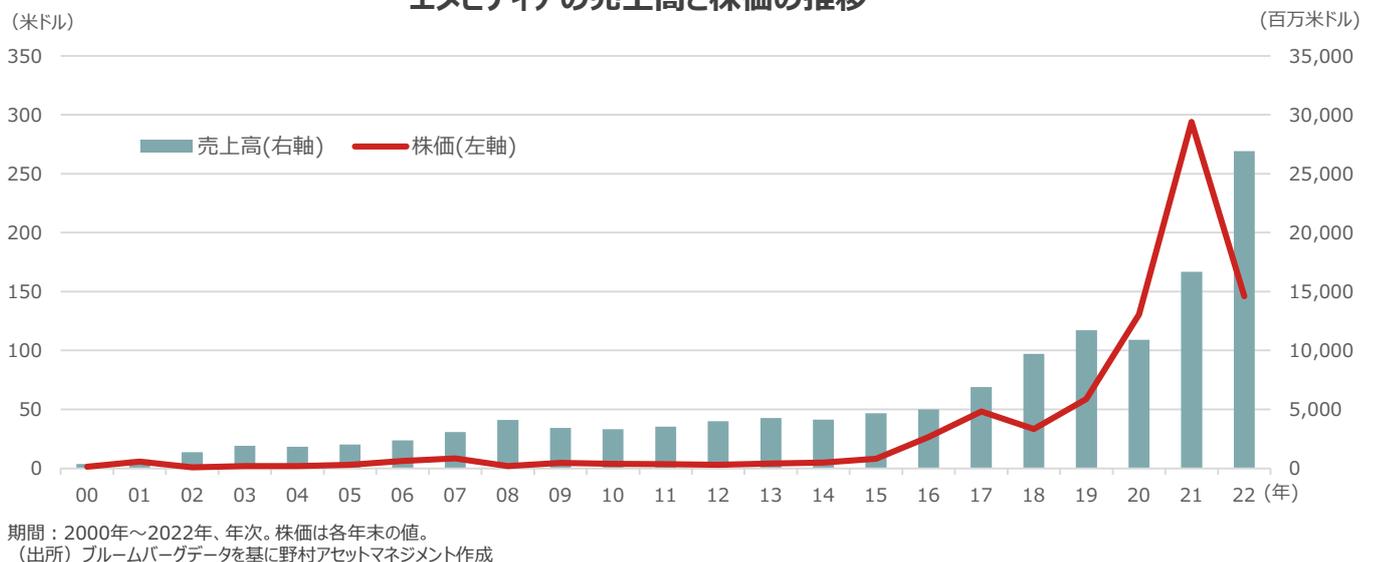
インテルの売上高と株価の推移



米エヌビディア：動画全盛期の主役

一方、足元での動画普及の全盛期を支えているのがエヌビディアです。コロナ禍で一般の人々による動画配信（YouTubeなど）が急増しました。動画は高速で大量のデータ処理を必要とし、そうした処理を担っているのがエヌビディアの半導体です。さらに今後はAI向けの半導体が普及することが予想されております。

エヌビディアの売上高と株価の推移



記載されている個別の銘柄については、参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

ご参考：半導体の製造工程を支える多くの企業

半導体の製造には、その工程において、材料メーカーや製造装置メーカーといった、多くの企業が携わっています。ここでは、大まかな半導体製造の流れを追いつつ、各工程で活躍を見せる企業の例を紹介します。身近な日本のメーカーの活躍にも注目です。



シリコンウエハーとは、シリコンでできた薄い円盤状の板のことで、上の画像のような円柱状の塊を輪切りにすることで製造されます。



画像はイメージです。

(出所) 各社ホームページなどの情報を基に野村アセットマネジメント作成

回路の設計

企業例：シノプシス、HOYAなど

素材製造

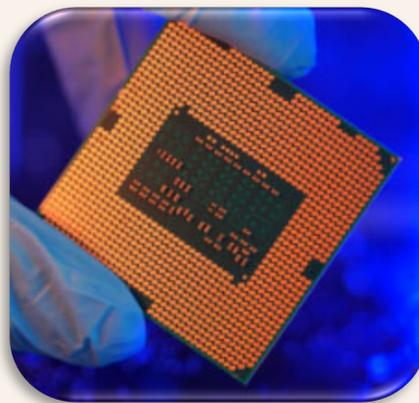
シリコンウエハーの製造
企業例：信越化学、東京エレクトロンなど

前工程

ウエハー上に電子回路を形成
企業例：ASML、東京エレクトロン、
アプライドマテリアルズ、ラムリサーチなど

後工程

ウエハーから半導体を切り分ける
企業例：アドバンテスト、ディスコなど



よく見る半導体のチップでは何十億個ものスイッチのオンオフの機能を果たす半導体が組み入れられています。

記載されている個別の銘柄については、参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご注意事項】を必ずご覧ください。

(ご参考)「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」の積立投資のシミュレーション

積立投資の魅力

投資信託への投資方法の一つに、定期的に一定額、もしくは一定数を買付ける「積立投資」があります。

「積立投資」は、買い付けのタイミングを分散させることで、買いコストをならしつつ資産形成を進めることが可能となります。

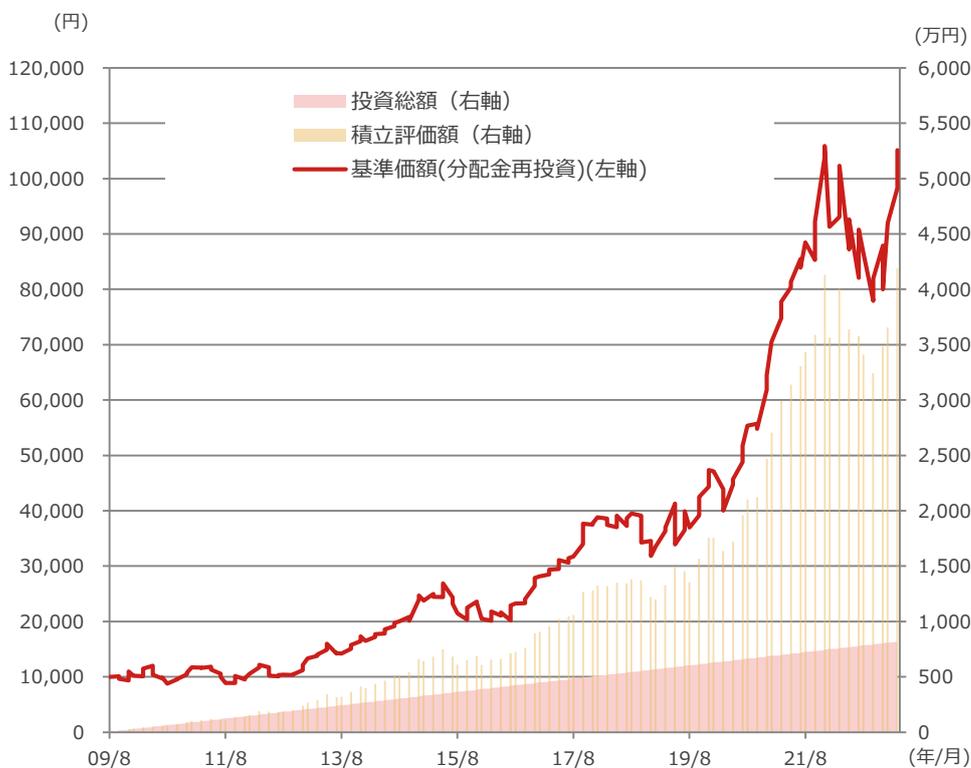
また、一定額で積み立てた場合、基準価額が高い時には少なく、安い時には多く買付けるため、一定数で積み立てた場合より、平均コストを低く抑えることが期待できます。

このことから、投資のタイミングに迷われる方や、これから将来に向けて資産を築いていこうという方には、是非ご検討いただきたい投資方法です。

下のグラフは、ファンドに、設定月末の2009年8月末から毎月末に5万円ずつ積み立てたと仮定した場合の投資総額と積立評価額の推移を表しています。

2023年3月末時点の積立評価額は約4,188万円となり、同時点の投資総額820万円を上回りました。約5倍になった計算です。

「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」の積立投資のパフォーマンス



期間：2009年8月末～2023年3月末、月次

基準価額（分配金再投資）は、「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」の設定日（2009年8月27日）の月末である2009年8月末を10,000として指数化。上図は、2009年8月末（「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」の設定日（2009年8月27日）の月末）から、「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」に5万円ずつ積立投資を行なった場合のシミュレーションです。

基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、基準価額（分配金再投資）を基に試算した結果であり、実際のファンドで積立投資する場合は分配金払い出し後の基準価額で購入するため、積立評価額は実際と異なる場合があります。算出過程で手数料、税金等は考慮していません。積み立ての時期によっては、積立評価額が投資総額を下回る場合があります。

「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」

設定来の運用実績

基準価額の推移

期間：2009年8月27日（設定日）～2023年4月24日、日次



基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

「野村世界業種別投資シリーズ」

「ファンドの特色」

●「野村世界業種別投資シリーズ」は、5本のスイッチング可能なファンドから構成されています。

◆各ファンド(マネープール・ファンドを除く4つのファンドを総称して「各ファンド」といいます。)

信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

◆マネープール・ファンド

安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

◆各ファンド

世界金融株投資

◆世界各国の金融株を主要投資対象とします。なお、優先株等普通株以外の株式、または当該企業に出資するために発行されるその他の有価証券に投資を行なう場合があります。

◆株式への投資にあたっては、世界各国の金融株を中心に、各国・地域のマクロ経済見通し等を考慮しつつ、利益構造、財務内容などの観点から個別銘柄のファンダメンタルズ分析を行ない、組入銘柄を決定します。

◆ファンドは、MSCI All Country World Financials(税引後配当込み・円換算ベース)※をベンチマークとします。

※MSCI All Country World Financials(税引後配当込み・円換算ベース)は、MSCI All Country World Financials(税引後配当込み・ドルベース)をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

世界半導体株投資

◆世界各国の半導体関連企業の株式を主要投資対象とします。

◆株式への投資にあたっては、世界各国の半導体関連企業の株式を中心に、各国・地域のマクロ投資環境見通し等を考慮しつつ、技術力、価格決定力、利益構造、財務内容などの観点からファンダメンタルズ分析を行ない、組入銘柄を決定します。

◆ファンドは、MSCI All Country World Semiconductors & Semiconductor Equipment(税引後配当込み・円換算ベース)※をベンチマークとします。

※MSCI All Country World Semiconductors & Semiconductor Equipment(税引後配当込み・円換算ベース)は、MSCI All Country World Semiconductors & Semiconductor Equipment(税引後配当込み・ドルベース)をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

世界資源株投資

◆世界各国の資源関連企業の株式を主要投資対象とします。

◆株式への投資にあたっては、世界各国の資源関連企業の株式を中心に、世界全体のマクロ経済見通し等を考慮しつつ、地理的・地質学的条件、生産コスト、価格決定力、利益構造、財務内容などの観点からファンダメンタルズ分析を行ない、組入銘柄を決定します。

◆ファンドは、MSCI All Country World Energy & Materials(税引後配当込み・円換算ベース)※をベンチマークとします。

※MSCI All Country World Energy & Materials(税引後配当込み・円換算ベース)は、MSCI All Country World Energy & Materials(税引後配当込み・ドルベース)をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

世界ヘルスケア株投資

◆世界各国のヘルスケア関連企業の株式を主要投資対象とします。

◆株式への投資にあたっては、世界各国のヘルスケア関連企業の株式を中心に、各国の医療制度・技術の進展動向等を考慮しつつ、成長性、利益構造、財務内容などの観点からファンダメンタルズ分析を行ない、組入銘柄を決定します。

◆ファンドは、MSCI All Country World Health Care(税引後配当込み・円換算ベース)※をベンチマークとします。

※MSCI All Country World Health Care(税引後配当込み・円換算ベース)は、MSCI All Country World Health Care(税引後配当込み・ドルベース)をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

MSCI All Country World Financials(税引後配当込み・ドルベース)、MSCI All Country World Semiconductors & Semiconductor Equipment(税引後配当込み・ドルベース)、MSCI All Country World Energy & Materials(税引後配当込み・ドルベース)、MSCI All Country World Health Care(税引後配当込み・ドルベース)は、MSCIが開発した指数で、同指数の著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●株式の組入比率は、原則として高位を基本とします。ただし、現地市場が休場等の場合や市況動向によっては、一時的に株式組入比率を引き下げる場合があります。

●外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

●運用にあたっては、ノムラ・アセット・マネジメントU.K.リミテッドに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。

世界半導体株投資は、一般社団法人投資信託協会が定める「信用リスク集中回避のための投資制限」に定められている「特化型運用」を行なうファンドに該当します。世界半導体株投資が投資対象とする世界各国の半導体関連企業の株式市場には、寄与度(市場の時価総額に占める割合)が10%を超える、もしくはを超える可能性が高い銘柄(支配的な銘柄)が存在すると考えられます。投資が支配的な銘柄に集中することが想定されますので、当該支配的な銘柄の発行体に経営破綻や経営・財務状況の悪化等が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

◆マネープール・ファンド

マネープール・ファンド

◆円建ての短期有価証券を実質的な主要投資対象※とします。

※「実質的な主要投資対象」とは、「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

◆「野村マネー マザーファンド」への投資を通じて、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。

◆ファンドは「野村マネー マザーファンド」を通じて投資するファミリー・ファンド方式で運用します。

●「野村世界業種別投資シリーズ」を構成する5本のファンド間で、スイッチングができます。

●原則、毎年6月28日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

「野村世界業種別投資シリーズ」

【投資リスク】

各ファンドは、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

「マネープール・ファンド」は、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 2027年6月28日まで(2009年8月27日設定)
- 決算日および収益分配 年1回の決算時(原則6月28日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円) または1万円以上1円単位 (ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。) なお、「マネープール・ファンド」は、スイッチング以外によるご購入はできません。
※お取扱コース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 【各ファンド】
ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
【マネープール・ファンド】
ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- スイッチング 「野村世界業種別投資シリーズ」を構成するファンド間で、スイッチングが可能です。
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 各ファンドは、販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
・ロンドンの銀行 ・ニューヨーク証券取引所
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2023年4月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、各ファンドから「マネープール・ファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	【各ファンド】 ファンドの純資産総額に年1.65%(税抜年1.50%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 【マネープール・ファンド】 ファンドの純資産総額に年0.605%(税抜年0.55%)以内(2023年3月23日現在年0.00121%(税抜年0.0011%))の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用(「マネープール・ファンド」を除く)、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	【各ファンド】 1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 【マネープール・ファンド】 ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◀分配金に関する留意点▶

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会/
 一般社団法人日本投資顧問業協会/
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<http://www.nomura-am.co.jp/>



【当資料について】

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

【お申込みに際してのご留意事項】

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第17号	○			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。